

龍谷大学 学修支援・教育開発センター通信

Ryukoku University Learning Support · Educational Development Center Report



Writing Support Center

ライティングサポートセンター
2020 オンライン相談、開室中！

*写真に写っているのは一部のチューターです。

レポート、卒論・卒研などはもちろん、「読み・書き・考える」に関して何でも相談してください。

【開室日時】 10月2日(金)~1月28日(木) 月・火・水・木・金曜日 11:30~15:30
【相談方法】 Google Meetにて対応します。完全予約制で、ポータルアンケートにて受け付けています。

* 詳細は、龍谷大学HPでライティングサポートセンターのページをご覧ください。
→ <https://www.ryukoku.ac.jp/writingsupport/>

ライティングサポートセンター

ライティングサポートセンター広報チラシ 学修支援・教育開発センター

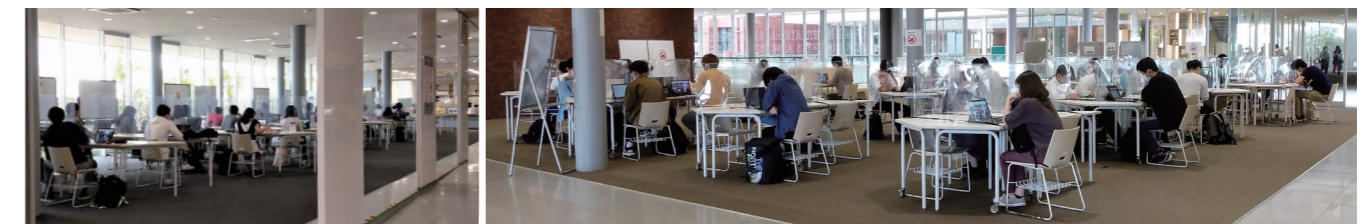


龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

学修支援・教育開発センター | 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-2163 Fax 075-645-2190 <http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/index.html>
発行日：2021年3月 編集・発行：龍谷大学 学修支援・教育開発センター

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた本学では、第一に学生および教職員の安全を考え、その上で、学生の学びの機会を保障する取り組みとして、オンライン授業の実施に踏み切りました。前例のないオンライン授業の実施にあたり、当センターでは以下の通り対応しました。

実施日	大学の決定	学修支援
3/25	授業開始の延期を通知	
4/6		「オンライン授業まとめサイト」オープン
4/8	第1学期は全ての授業をオンライン授業として実施することを通知	
4/10 - 4/17		オンライン授業講習会(ハンズオンセミナー)の開催(情報メディアセンター)
5/20		ライティングサポートセンターオンラインでの開室開始
6/8 - 6/14		「オンライン授業における学習状況調査」の実施(全学生対象)
6/24		FDサロン「グッドプラクティスの共有」の開催(オンライン)
7/9		「龍谷ICT教育賞」の募集開始※
7/21		FDサロン「オンライン授業をテーマとする交流会」の開催(オンライン)
9/23	対面授業とオンライン授業を併用して第2学期開始	ラーニングコモンズを自習室として開放
11/2 - 11/13		「合理的配慮を要する学生への対応に関する状況確認にかかるアンケート」の実施(該当授業担当教員)
11/2 - 11/20		「オンライン授業の運営方法に関するアンケート」(全教員対象)
2021/3/2		第16回 龍谷大学FDフォーラム 「龍谷ICT教育賞・学長賞」公開審査会を開催(オンライン)



ラーニングコモンズ 自習風景

【参考】オンライン授業については、以下の通り定められています。

- 大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)(抄) ※大学院設置基準において準用、短期大学設置基準において同旨規定。
第25条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
- 2 大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 大学は、第一項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
- 4 略

- 平成13年文部科学省告示第51号(大学設置基準第二十五条第二項の規定に基づく大学が履修させることができる授業等)(以下、「メディア授業告示」)(抄) 通信衛星、光ファイバ等を用いることにより、多様なメディアを高度に利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもので、次に掲げるいずれかの要件を満たし、大学において、大学設置基準第二十五条第一項に規定する面接授業に相当する教育効果を有すると認められたものであること。
- 一 同時かつ双方向に行われるものであって、かつ、授業を行う教室等以外の教室、研究室又はこれらに準ずる場所(大学設置基準第三十一条第一項の規定により単位を授与する場合においては、企業の会議室等の職場又は住居に近い場所を含む。)において履修させるもの
- 二 毎回の授業の実施に当たって、指導補助者が教室等以外の場所において学生等に対面することにより、又は当該授業を行う教員若しくは指導補助者が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うものであって、かつ、当該授業に関する学生の意見の交換の機会が確保されているもの

メディアを利用して行う授業に関するガイドライン(メディア授業ガイドライン)
(メディア授業に用いる要素)

第八条 メディア授業告示の定める「多様なメディアを高度に利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもの」とは、次の第一号から第四号までの各号に定めるものを二以上組み合わせて行う授業であり、第五号及び第六号を加えることができるものとする。ただし、メディア授業の中心となる第十一条第一項第一号に定める音声及び動画による授業は、必ず音声及び動画を用いるものとする。

- 一 文字 インターネット等による通信手段により画面等に表示する文字
- 二 音声 インターネット等による通信手段により音声再生装置等より発生する音声
- 三 静止画 インターネット等による通信手段により画面等に表示する静止画
- 四 動画 インターネット等による通信手段により画面等に表示する動画
- 五 その他の実物 大学設置基準第二十一条第二項第二号、短期大学設置基準第七条第二項第二号に定める実験、実習及び実技のために必要となる実物
- 六 その他の郵送等のメディア 郵送等により前五号の電子情報又は実物を記録媒体又は印刷物により配付又は添削等のために往復するもの

公益財団法人私立大学通信教育協会(平成28年3月24日第158回理事会決定 / 平成28年3月30日第116回評議員会決定)

p03

2020年度オンライン授業への対応

p04

2020年度「龍谷ICT教育賞」

p06

2020年度ライティングサポートセンター活動報告

p07

2020年度 「学生による学期末の授業アンケート」実施報告 2020年度 十学部合同学生会の活動について

p08

2020年度学修支援・教育開発センター事業内容報告

p11

新着図書紹介

2020年度「龍谷ICT教育賞」

第16回龍谷大学FDフォーラム 2020年度「龍谷ICT教育賞・学長賞」公開審査会

龍谷大学学修支援・教育開発センターでは、FD推進事業として、毎年度FDフォーラムを開催しております。

ICTを活用した教育効果の向上をはかる
実践的な取り組みの共有

2020年度「龍谷ICT教育賞・学長賞」公開審査会

龍谷大学学修支援・教育開発センターでは、FD推進事業として、毎年度FDフォーラムを開催しております。16回目を迎える今回は、コロナ禍において、授業運営に尽力している教員や、学生の学習意欲向上に努めている教職員を対象として、優れた取組を称賛するための制度として創設した「龍谷ICT教育賞」の公開審査会をFDフォーラムとして以下のとおり開催します。

ICTを活用した教育効果の向上をはかる実践的な取組を称賛と共有する機会となりますので、ご関心があります教職員、学生などの皆様ぜひ参加のご検討をお願いいたします。ご応募の申し込みを心よりお待ちしております。

日時：2021年3月2日（火）15:00～17:00（詳細は要請）
会場：オンライン（Zoomウェビナー）

申し込み方法
申し込みはQRコードから申し込みください。
https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=8XEpA6R8208ha_Ju9uP2u8ZTH8MNAe0XG0G0uH0eYFVWThPQ0u5S0Q0R0V8TEH0Y0u

申込QRコード

応募定員 100名
申込期日 2021年2月24日（水）

お問い合わせ先
龍谷大学 学修支援・教育開発センター
電話 075-645-2163 FAX 075-645-2190
E-Mail fd-ryukoku@ad.ryukoku.ac.jp 担当 水野

龍谷大学FDフォーラムは、毎年度、高等教育政策の動向や本学における教育改革状況等を踏まえながら、テーマを設定して開催しています。

16回目を迎える今回は、授業運営に尽力している教員や、学生の学習意欲向上に努めている教職員を対象として、優れた取組を称賛するための制度として創設した「龍谷ICT教育賞」の「龍谷ICT教育賞・学長賞」を決定するための公開審査会として開催しました。「龍谷ICT教育賞」に応募があった29件の取り組みのうち、「龍谷ICT教育賞」として選定された「個人グループ部門」から6件、「組織部門」から3件、合計9件の取り組みから発表があり学長・教職員・学生からなる審査員が審査をしました。審査会を龍谷大学FDフォーラムとして開催することにより、当日参加された約90名もの皆様ともICTを活用した教育や取組の中から得られた成果・課題が共有できる実りある機会となりました。



審査結果（龍谷ICT教育賞・学長賞）

学長賞	申請枠	申請者	取り組み名
		○申請代表者	
学長賞	個人・グループ	○青井 昭博（経済学部・非常勤講師）	オンライン授業での新たな展開
	個人・グループ	○河合 美香（法学部・准教授） 小山さきこ（教養教育科目・非常勤講師）	ICTを活用した運動の習慣化への取り組み
	個人・グループ	○坂本 彩（社会学部・非常勤講師）	オンライン授業だからこそできる実践現場の空気を伝える授業
☆学長賞	個人・グループ	○野村 康之（教養教育科目・非常勤講師）	オンデマンド授業における実物教授の実践
学長賞	個人・グループ	○舟橋 春彦（農学部・非常勤講師）	予想を出し合い実験で確かめる双方向授業「物理学概論・実験」のハイフレックス化の試み
		辻村 真衣（農学部・助手）	
		原田 賢（農学部・助手）	
		森本 彩花（農学部教務課・事務職員）	
学長賞	個人・グループ	○松本 卓也（教養教育科目・非常勤講師）	異業種のストーリーミング技術を取り入れた新しい講義形態の模索—スマホネイティブ世代の学生による／学生のためのFDを目指して—
		宮本 佳穂（文学部・3回生）	
		柿本千笑実（経済学部・4回生）	
学長賞	組織的取組	池田 博紀（文学部・2回生）	コロナ禍において入門ゼミで行った挑戦と醸成
		○石原 健吾（農学部・教授）	
		田邊 公一（農学部・教授）	
		中村 富予（農学部・教授）	
学長賞	組織的取組	岡崎 史子（農学部・講師）	Teamsライブイベントを用いた大人数講義の実施について
		○外村 佳伸（先端理工学部・教授）	
		富崎 欣也（先端理工学部・教授）	
☆学長賞	組織的取組	○矢ノ根 聡（附属平安高等学校・教頭）	高大連携科目『理数研究』におけるオンラインと対面のハイブリッド型による授業展開について
		五十嵐茂樹（附属平安高等学校・理科主任）	
		竹内 智一（附属平安高等学校・数学主任）	
		吉本 匡伸（附属平安高等学校・高大連携主任）	



配信の様子



学生審査員のコメント



2020年度「龍谷ICT教育賞・学長賞」表彰式

2021年3月24日に「龍谷ICT教育賞・学長賞」の表彰式を執り行いました。受賞者には入澤学長から表彰状と記念盾が授与され、一組ずつICTを活用した授業における工夫や今後の抱負などをスピーチしていただきました。その後、受賞者と入澤学長による懇談会を実施し、コロナ禍で急遽オンライン授業を実施せざるを得ない状況となる中、どうすれば学生への教育の質を保証できるか、一方通行ではなく、対面授業のように教員と学生、学生同士が交流することができるかなど、先生方がオンライン授業を実施されるにあたっての工夫を共有することができました。それらの事例については報告集にまとめ、後日、学修支援・教育開発センターのホームページに掲載する予定です。



「龍谷ICT教育賞」について

龍谷大学では、コロナ禍において、授業運営に尽力している教員や、学生の学習意欲向上に努めている教職員を対象として、優れた取組を称賛するための制度として、「龍谷ICT教育賞」を創設しました。

各授業担当者は、コロナ禍の制約された環境下であっても、ICTツールを駆使し、学生の主体的・積極的な参加を促し、理解が促進されるような授業運営をしてきました。また、各学部等の教学主体においても、学生の学修意欲を高めるための取組を検討・実施してきました。「龍谷ICT教育賞」を実施することによって、こうした取組を一過性のものとして終わらせることなく、試行錯誤によって生み出し改善された教育手法を本学の財産として蓄積しつつ、大学内に波及させ、教育活動を活性化します。

詳細はこちら http://fd.ryukoku.ac.jp/biz_content2/project2/ryukoku_ict.php



ライティングサポートセンターは、「論理的に考える能力を養い、それにとまなう表現の技術を高める。」「読み書き能力の向上にとどまらず、分析力を高める。」の2点を理念とし、本学学生のレポートや卒業論文などのライティングにまつわる相談に応じ、それらを支援することを目的としています。

〈相談対応事業〉

本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、完全予約制によるオンラインでの相談対応を実施しました。授業実施期間中に週5日、合計124日開室し、18名のライティングチューター(大学院生)が2人1組で対応しました。オンラインに慣れない相談者に向けて、オンライン相談の流れを紹介する動画を公開するなど、利用するためのサポートも実施しました。完全予約制のため、例年より相談者数は少なくなりましたが、相談総数は388人となりました。

また、内容については、レポート課題が半数をしめ、ついで、卒業論文・研究についての相談が多く寄せられました。

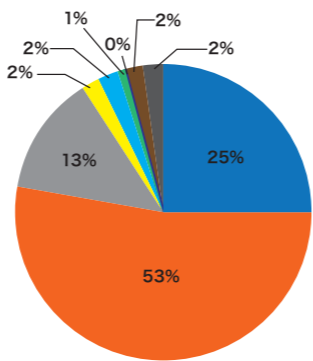
例年、相談者アンケートによると、教員の紹介による相談者が多かったのですが、本年度はホームページを見て利用した相談者が多くなりました。

(1) 相談内容の種別

*1回のセッションで複数の種別対応をしたケースを含む。

相談内容の種別	件数
卒業論文・研究	100
レポート課題	211
ゼミ発表(レジュメ)	53
ゼミの志望理由書	7
修士論文	7
研究計画書	6
就職関係	1
留学関係	8
その他	8

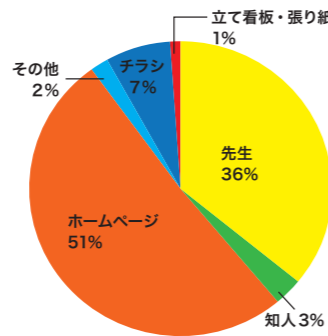
【相談内容種別の割合】



■ 卒業論文・研究 ■ レポート課題 ■ ゼミ発表(レジュメ) ■ ゼミの志望理由書
■ 修士論文 ■ 研究計画書 ■ 就職関係 ■ 留学関係 ■ その他

*その他は、プログラム参加に関する志望書、学会報告書、授業後のコメントシート、大学への編入の志望理由書など。

(2) 利用したきっかけ(相談者アンケート)



*その他は、障害学習支援室の方に聞いて、オンライン講習会を聞いて、自分もライティングチューターをしていて。

〈相談対応以外の支援事業〉

1. 講習会

講習会は通常の相談対応とは異なり、ライティングスーパーバイザーが講師となり、これまで蓄積された相談者のデータをもとに学生が読みやすい内容をピックアップして、主に昼休み等にて実施しています。本年度はオンライン(Google Meet)で合計4回実施し、合計333名の参加がありました。

※2021年度講習会の開催予定が決まりましたら改めてご案内いたします。

2. 出張講習

出張講習は、科目担当教員の依頼(原則、1年次生受講科目)に基づき、ライティングスーパーバイザーやライティングチューターが授業内でレポートの作成において必要な内容(論文の構成・引用の方法等)をテーマに60分の講義を行うものです。

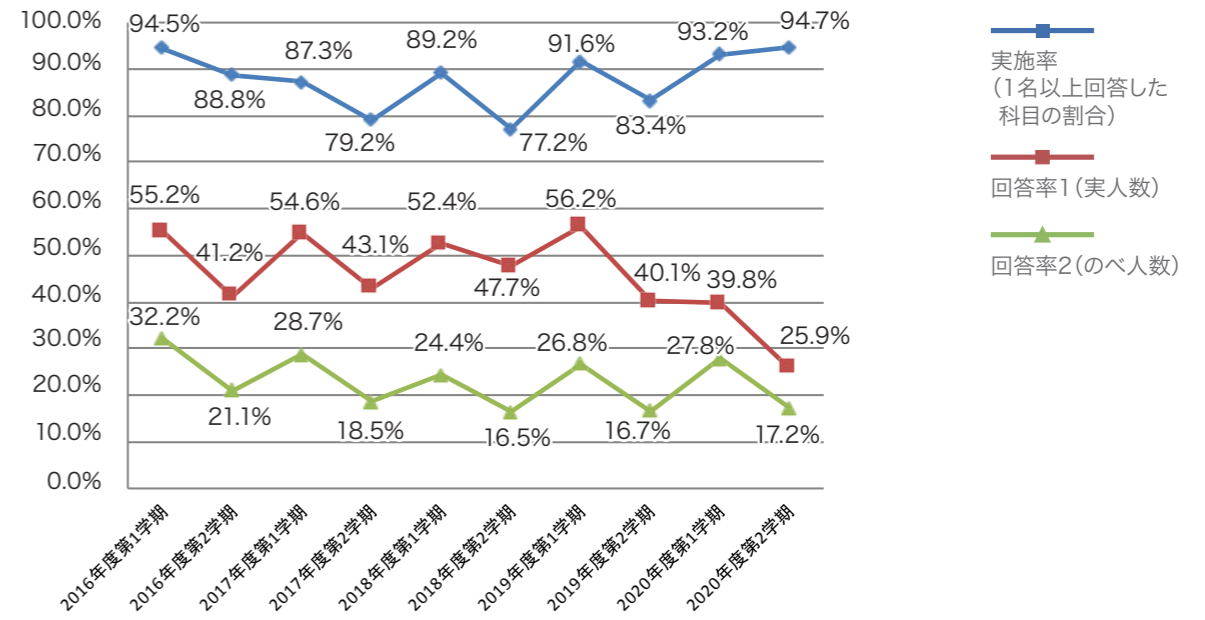
講習会同様にオンライン(Google Meet)で実施しました。

2021年度前期ライティングサポートセンター開室

前期は、従来の対面での相談は行わず、Google Meet を使用し、オンラインで行います。利用は完全予約制で、ポータルから申し込みます。

【開室期間】 2021年4月19日(日) - 8月3日(火) 【開室時間】 11:30 - 15:30 (授業実施期間中)

詳しくはホームページをご覧ください。 <https://www.ryukoku.ac.jp/writingsupport/index.html>



実施率1... 回答科目(1名以上の回答があった科目)数÷対象科目数×100

回答率1... 【実人数回答率】

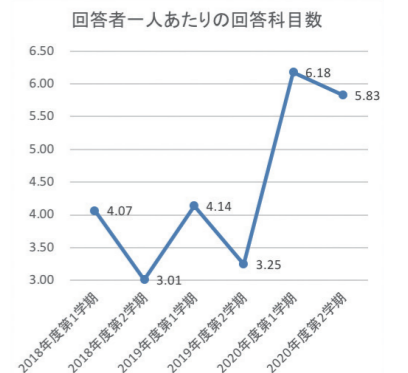
実回答者数÷実受講登録者数×100

(実回答者数=1学生が1以上の科目を回答した場合は1人とカウント)

(実受講登録者数=1学生が1以上の対象科目を有する場合は1人とカウント)

回答率2... 【延べ人数回答率】

回答者数÷受講登録者数×100



2020年度十学部合同学生会活動について

本年度は大学にも、学生にとっても変革を迫られた年でした。本会も例年行ってきた行事の中止等、方針転換を余儀なくされました。その中で学生が抱える正課への不安は例年以上になると予想した本会は、その不安を大学へ伝える必要があると感じ、現状把握と改善こそ責務として前・後期で2回、全学生対象のアンケートを行いました。やはり初のオンライン授業という慣れない環境、大学だからこそ可能な学生間交流の不足など、今後の学生生活を左右する不安が例年以上に多く、現状改善と来年度を見据え、対応する必要があると実感しました。この結果を基に、各学部で開催した懇談会や全学協議会で、オンライン化での学びの保全・充実化、学生・教職員間の情報伝達の重要性の再確認、学生間交流等を要望するに至りました。

来年度においても学生の意見をより集められるよう、アンケート窓口の拡充や情報収集の効率化を進めるとともに、学生・大学間意見交換会を都度設置したいと考えております。

大学と学生はパートナーという入澤学長のお言葉を拝借し、本学がよりよい学びの空間になる為、本会も動いてまいります。引き続き本会活動へのご理解・ご協力のほど、お願い申し上げます。

2020年度 十学部合同学生会

十学部合同学生会とは

龍谷大学には学生自治組織の「校友会」があります。そのうち、正課について活動する団体が十学部合同学生会です。

2020年度学修支援・教育開発センターの事業総括について

学修支援・教育開発センターでは、2020年度の基本方針(2020年度第1回学修支援・教育開発センター会議(5月22日開催)承認)に基づき、教員個人及び各学部・研究科等が行う教育改善活動と有機的に連携を図りながらFDの実質化を目指し、全学的な視点から各種FD事業を下記のとおり、企画・実施した。

1. 教育開発・研究

(1) 自己応募研究プロジェクト

教育改革を推進する一環として、次の6件の自己応募研究プロジェクトを推進した。

また、研究成果の共有を目的として、「自己応募研究プロジェクトポスター展示」を実施する予定である。

テーマ	代表者
中途退学の予防に向けた大学適応感質問紙の作成	小正 浩徳(文学部)
地理情報システム(GIS)を用いた授業展開の基盤構築に向けて	山田 誠(経済学部)
レゴブロック実習を通じたマネジメント能力とリテラシ能力向上のためのプログラム開発<2020年9月 辞退>	西岡 久充(経営学部)
学習者が学習に対して責任を担うための補助教材—Team Based LearningとICTの推進に向けて—	李 洙任(経営学部)
全学無線APを利用した出席管理システムの実運用展開と機能拡張	佐野 彰(理工学部)
保育における言葉の指導法の学修に関する授業改善・教材開発	生駒 幸子(短期大学部)

(2) 指定研究プロジェクト

2020年度指定研究プロジェクトは、次のプロジェクトを推進した。なお、研究成果の共有を目的として、自己応募研究プロジェクトとともに、ポスター展示を実施する予定である。

テーマ	代表者
ティーチング・ポートフォリオ・チャートの導入・普及に関する研究	藤田 和弘 (先端理工学部/教学企画部長、学修支援・教育開発センター長)

2. 教育改善活動支援

(1) 学生による学期初めの授業アンケート

授業を展開する上で重要な学期初めにおいて、各教員が必要に応じて実施できる授業アンケートが有用であることから、授業期間初期における授業改善(学生へのフィードバック等含む)が可能となるよう、「学生による学期初めの授業アンケート」を実施した。

対象科目：2020年度第2学期全開講科目

※第1学期については、新型コロナウイルス感染症への対応のため、全面オンラインで授業が実施されたことに伴い、実施していない。

■第2学期実施期間9月23日(水)～10月13日(水)

実施方法：オンライン及びアンケート用紙を配布して実施

(2) 学生による学期半ばの授業アンケート

学期半ばにおいて、受講している学生の授業に関するニーズや要望等を把握し、授業内容・方法等の見直し・改善を行うとともに、その結果を学生にフィードバックすることで学生の学習意欲の向上につなげることを目的として、「学生による学期半ばの授業アンケート」を実施した。

対象科目：2020年度第2学期全開講科目

※第1学期については、新型コロナウイルス感染症への対応のため、全面オンラインで授業が実施されたことに伴い、実施していない。

■第2学期実施実施期間11月11日～12月1日

実施方法：オンライン及びアンケート用紙を配布して実施

(3) 学生による学期末の授業アンケート

実施目的・方針に基づき、manaba course上で「学生による学期末の授業アンケート」を実施した

【実施目的・方針】
①学生が学期ごとの自身の授業に対する取り組みを振り返りながら記録することによって学修活動を伸長・改善するための学修支援の一環として実施する。
②学生の回答結果を用いて、教員が個々の授業改善活動に活用し、学部等の組織が集計結果を組織的な教育改善活動に活用するための教育改善活動支援の一環として実施する。
③「学生による学期末の授業アンケート」は、成績評価などの学生個人に関わる評価や、授業評価などの教員個人に関わる評価のために実施・活用しない。

対象科目：2020年度第1学期・第2学期開講の講義科目

※原則、講義科目は実施することとし、演習・実習等の科目や研究科科目については、各教学主体で判断し実施した。

■第1学期実施

(実施期間2020年7月10日(金)～8月4日(火))

対象科目数	2,650 科目	受講登録者数	163,821 人
実施科目数	2,470 科目	回答者数	45,570 人
実施率	93.2%	回答率	27.8%

※実施率 回答科目(1名以上の回答があった科目)数÷対象科目数×100

※回答率 回答者数÷受講登録者数×100

■第2学期実施

(実施期間2020年12月23日(水)～2021年2月1日(月))

対象科目数	2,739 科目	受講登録者数	153,972 人
実施科目数	2,594 科目	回答者数	26,485 人
実施率	94.7%	回答率	17.2%

※実施率 回答科目(1名以上の回答があった科目)数÷対象科目数×100

※回答率 回答者数÷受講登録者数×100

(4) 教学IR(Institutional Research)機能の整備

本学における教学IRの定義に基づき、昨年度に引き続き、大学IRコンソーシアムの学生調査をおこなった。1回生調査については、7学部(文学部・経済学部・経営学部・先端理工学部・社会学部・国際学部・農学部)が実施し、上級生調査(3回生対象)については、5学部(文学部・経済学部・先端理工学部・社会学部・国際学部)が実施した(※)。これらの調査結果をもとに、本学学生の「学修行動」、「能力の伸張に関する自己評価」、「満足度」などについて、他大学と比較した学部ごとの傾向を抽出し、また、上級生調査を行った学部については、1回生からの学修状況や知識・能力の伸長の結果について、分析した。

※大学IRコンソーシアム学生調査は、在学時に2回(1年次・3年次)実施するものである。このため、2018年度に1年次生調査を実施した文学部・経済学部・先端理工学部・社会学部・国際学部は、同学生(3年次生)対象に「上級生調査」を実施した。

<本学における教学IRの定義>

教学IRとは、教学における内部質保証体制の確立及び強化を目的として、教育全般に関する情報収集・提供及びデータ分析、並びに教学政策の策定及びその支援を行う取り組みのことをいう

(5) 龍谷ICT教育賞の創設

コロナ禍において、授業運営に尽力している教員や、学生の学習意欲向上に努めている教職員を対象として、優れた取組を称賛するための制度として、「龍谷ICT教育賞」を創設した。29件の応募の中から9件の取組が龍谷ICT教育賞を受賞した。さらにFDフォーラムとして実施した「龍谷ICT教育賞・学長賞」公開審査会において9件の中から2件の取組が学長賞を受賞した。

3. 教育活動交流・研修

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインを中心に開催し、一部を対面及び対面とオンラインを併用したハイブリットで開催した。

(1) 専任教育職員新任者就任時研修会(対面開催)

昨年度に引き続き、龍谷大学に初めて着任した教員を対象に、龍谷大学の教育理念をはじめ、本学の教育研究活動支援サービスの利用方法等について研修を実施した。

開催日	研修名	主催	参加者数
4月 2日(深草) 3日(瀬田)	2020年度新任者就任時研修	教学企画部 情報メディアセンター	30名

(2) FDフォーラム

「龍谷ICT教育賞・学長賞」の公開審査会をFDフォーラムとして開催し、取組事例を学内外で共有した。

開催日	テーマ	内容	参加者数
3月 2日	ICTを活用した教育効果の向上をはかる実践的な取り組みの共有	2020年度「龍谷ICT教育賞・学長賞」公開審査会	95名

(3) FDサロン

学内教職員のFD活動に関する啓発と交流を図るため、以下のとおりFDサロンおよび勉強会を実施した。

開催日	テーマ	主催/講師	参加者数
6月 24日	オンライン授業における授業運営の工夫の共有	学修支援・教育開発センター	78名
7月 22日	オンライン授業をテーマとする交流会	学修支援・教育開発センター	22名
12月 15日	ティーチングポートフォリオ・チャートに関するFD—教育改善のための記録—	教授 北野 健一氏 (大阪府立大学工業高等専門学校)	5名

(4) 公開授業と講評会

自己応募研究プロジェクトの中間報告として、以下のとおり公開授業や講評会を実施した。

開催日	代表者	科目名/テーマ
11月 9日	山田 誠(経済学部)	GISの授業実践例と活用のヒント
11月13日	佐野 彰(理工学部)	全学無線APを利用した出席管理システムの実運用展開と機能拡張
	生駒 幸子(短期大学部)	子どもの豊かな言葉を育む保育活動のデザイン
1月19日	李 洙任(経営学部)	Team Based Learning (TBL) とICTの活用事例 No students left behind (一人の学生も置いてきぼりにしない) 教育実践
1月20日	小正 浩徳(文学部)	「中途退学の予防に向けた大学適応感質問紙の作成」について

(5) FD 報告会 (研修会含む)

昨年度に引き続き、各学部・研究科のFD活動の取組状況や成果を全学で共有するため、以下のとおりFD報告会を開催し、教学資産の共有とFDの普及を図った。

開催日	学部等	テーマ	参加者数
5月13日	先端理工学部	オンライン授業の実施事例紹介(実験・演習科目含む)	77名
6月 3日	先端理工学部	オンライン授業の実施事例紹介(実験・演習科目含む)	77名
	農学部	農学部における進路実績報告	46名
6月17日	先端理工学部	オンライン授業の実施事例紹介(実験・演習科目含む)	80名
7月15日	農学部	農学部オンライン授業の総括(2020年度前期)について	56名
7月30日	経営学部	合同型演習における合同報告会Ⅰ	9名
7月31日	経営学部	「マネジメント演習(基礎)」として試行されていた基礎演習の成果報告会	8名
9月 9日	教養教育・学部共通コース FD研究開発プロジェクト 人文科学系科目部会	大人数教養科目におけるオンライン授業のスキルアップ<第1回研究会> オンライン授業の実践報告(1)	23名
10月 7日	教養教育・学部共通コース FD研究開発プロジェクト 人文科学系科目部会	大人数教養科目におけるオンライン授業のスキルアップ<第2回研究会> 【講演会】大講義オンライン授業における障がい学生への合理的配慮～前期の事例から～	18名
10月21日	経営学部	2020年度プログラム科目実施報告会	5名
11月11日	経済学部	専門科目におけるオンライン授業の実践～経済学史の場合	46名
	農学部	「IRコンソーシアム学生調査」の分析について	50名
11月18日	農学部	農学部二期生の学修状況について 農学部生に対する英語教育について	49名
12月 9日	実践真宗学研究科	看護と仏教の連携を求めて 多死社会の終正期に看護者と 仏教者は何をすべきか	10名

開催日	学部等	テーマ	参加者数
12月16日	先端理工学部	教員活動自己点検 特定科目の成績分布データに基づく検証	79名
12月23日	経営学研究科	留学生による実験的試行から見える 新コースのあり方	7名

2021年

開催日	学部等	テーマ	参加者数
1月13日	法学部	「大学生基礎力レポートⅡ」 「アセスメントテストテスト (GPS-Academicの結果について (分析と解説)」	48名
1月20日	社会学部	就学継続に困難を抱える学生の 状況と求められる支援 ～中退予防の観点から	51名
	政策学部	地域連携型教育(CBL)プログラムの モデル化および質保証の実質化 —実践型教育プランナーとは—	24名
1月27日	短期大学部	オンライン授業における 学生アンケート結果の検討	23名
	理工学研究科	ハラスメントの被害と加害を 防ぐために	84名
1月28日	経営学部	合同型演習における合同報告会Ⅱ	8名
2月25日	教養教育・学部共通コース FD研究開発プロジェクト 人文科学系科目部会	大人数教養科目における オンライン授業のスキルアップ <第3回研究会> オンライン授業の実践報告(2) 大講義におけるハイブリッド授業の 実践報告	26名
	文学部/文学研究科	文学部TA・ST制度の 現状と課題	78名
3月 3日	先端理工学部	社会活動の活性化や社会貢献等 の諸活動の推進について	92名

4. 学修支援

(1) スチューデントコモンズの充実

2020年度のスチューデントコモンズは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、第1学期は閉室となり、第2学期は自習室としての利用となった。

SD(ソーシャルディスタンス)を確保するために座席数を削減したり、感染拡大防止パネルを各席に設置したり、感染拡大防止策を実施した。また、対面でのグループワークなどの実施が困難であったため、学生同士のコミュニケーションの支援を目的としてオンラインミーティング(Google Meet)を案内するなどの学修支援を実施した。

(2) ライティングサポートセンターの運営

全学的組織となり3年目を迎えたライティングサポートセンター(以下、「センター」という。)は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためオンラインでの対応となった。事前予約制でGoogle Meetを利用して、現場責任者のライティングスーパーバイザーのもと、ライティングチューター(大学院生)が学部生のレポートの書き方等の相談対応を行った。

学生のライティング能力の向上や学生のセンターの利用促進を目的に実施してきた公開講習会や出張講義(※)についても

以下の通りオンラインで実施した。

※科目担当教員の依頼にもとづき、ライティングスーパーバイザーやチューターが授業内でライティング関連の講義やセンターの紹介を行う。

開催日	テーマ	参加者数
6月26日	レポートに備えよう	78名
6月29日		22名
10月21日	卒業論文・卒業研究をスムーズに作成するために ～論文の基本、再確認!～	106名
10月23日		69名

また、ライティングチューターがセンター業務を行うことでどのような成長があったかを把握するため、ループリック形式で自己評価させる成長度調査を行った。

(3) 学修ポートフォリオ(キャリアビジョン・フォリオ)の構築

学生自らの正課及び正課外の諸活動に対し、その過程や成果を管理・蓄積できる仕組みとして、全学的に学修記録システムを構築するため、eポートフォリオシステム「Mahara」を全学導入した。

5. 学内外との連携、情報収集・発信

(1) 各学部・研究科との連携

各学部・研究科の取り組みに関する情報交換・共有を図るため、「学部FD協議会」「大学院FD協議会」を各1回開催した。

開催日	会議名	内容
6月 7日	第1回学部FD協議会	2019年度各学部・研究科のFD活動報告について 2020年度各学部・研究科のFD活動計画について
	第1回大学院FD協議会	

※上記FD協議会については、学部・大学院の合同開催とした。

(2) 他大学等との連携


全国私立大学FD連携フォーラム、(社)私立大学連盟、(財)大学コンソーシアム京都、関西地区FD連絡協議会等が主催する各種フォーラムや研修会、講演会等に参加した。

(3) 情報収集・調査

学修支援・教育開発センターが中心となり、文教政策等、

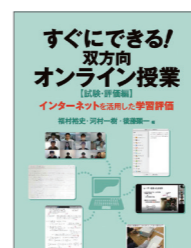
新 着 図 書 紹 介

まちがキャンパス
—アクティブ・ラーニングが学生と地域を強くする—




出版年月：2019年4月
編著：眞鍋 和博/石谷 百合加
発行所：梓書院
価格：0000円(税込)
ページ数：165p
大 き さ：A5判
ISBN：9784870356450

すぐにできる! 双方向オンライン授業
—インターネットを活用した学習評価—



出版年月：2020年12月
編者：福村 裕史/
河村 一樹/
後藤 顕一
発行所：化学同人
価格：0000円(税込)
ページ数：101p
大 き さ：B5判
ISBN：9784759820607

すぐにできる! 双方向オンライン授業
—Zoom、Teams、Googleソフトを活用して、質の高い講義と化学実験を実現—



出版年月：2020年7月
編者：福村 裕史/
河村 一樹/
後藤 顕一
発行所：化学同人
価格：0000円(税込)
ページ数：96p
大 き さ：B5判
ISBN：9784759820430

OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来： エージェンシー、資質・能力とカリキュラム

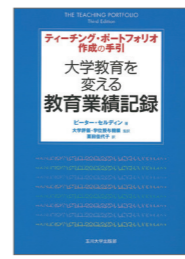


出版年月：2018年1月
著者：白井 俊
発行所：ミネルヴァ書房
価格：0000円(税込)
ページ数：274p
大 き さ：A5判
ISBN：9784623090440

OECDが世界に影響を与えた「キー・コンピテンシー」から15年余。OECD Education2030プロジェクトは、AIの発達や移民の増加などの社会変化の下で、2030年という近未来に必要となるキー・コンピテンシー、さらには、それを育むためのカリキュラムの方向性を示すものである。とりわけ、「エージェンシー」や「カリキュラム・オーバーロード」などに関する考え方は、今後の我が国の教育を考えたうえで必須の概念となるだろう。OECDと文部科学省両方の立場からプロジェクトにかかわり、その全貌を知る著者による渾身の一作。

大学教育を変える教育業績記録

—ティーチング・ポートフォリオ作成の手引—



出版年月：2007年10月
著者：セルデン・ピーター (Seldin, Peter)
監訳：大学評価・学位授与機構/川口 昭彦 訳：栗田 佳代子
発行所：玉川大学出版部
価格：0000円(税込)
ページ数：388p
大 き さ：A5判
ISBN：9784472403545

教育業績の評価と教育活動の改善に使われるティーチング・ポートフォリオ(教育業績記録)の作成方法から学問領域別の実例まで。

2040年 大学教育の展望

—21世紀型学習成果をベースに—



出版年月：2019年10月
著者：山田 礼子
発行所：東信堂
価格：0000円(税込)
ページ数：279p
大 き さ：A5判
ISBN：9784798915715

大学教育の新天地へ。今日の大学は、研究機関としてのみならず、学生の自律性の獲得やイノベーション創出、STEM人材教育、生涯学習など多岐にわたる社会的要請を受けている。大学教育は、アクティブ・ラーニングや文理融合教育、初年次教育の工夫、IR部門の設置などによってこれらの要請に応えている。国公立の大学再編に向かう大学教育における多様な学習成果習得の工夫を追求する本書は、今後の大学教育が進むべき方向を指し示す羅針盤となるだろう。

図書貸し出しのご案内

学修支援・教育開発センターでは、高等教育やFDに関する図書を購入手、教職員へ貸し出しを行っておりますので、是非ご利用ください。専任教職員につきましては、学内便での貸し出しも可能です。1.お名前、2.ご所属、3.教員/職員の別、4.貸出希望の書名、5.著者名を明記の上、dche@ad.ryukoku.ac.jp までお申込ください。詳細は、http://fd.ryukoku.ac.jp/for_teacher2/ をご参照ください。





龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY